

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○平成 24 年度会員名簿の掲載事項について 締切 10 月 10 日	66
○「資格試験のための農業農村工学必携」刊行のお知らせ (再)	67
○平成 25 年度農業農村工学会賞候補の推薦について (再) 締切 10 月 31 日	67
○平成 24 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について (再) 申請締切 9 月 14 日	67
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	68
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い	68
○CPD 研鑽記録提出に当たり Web システム利用を!	69
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	69
○論文集の電子投稿・査読システムを導入しました	69
○平成 25 年の表紙写真の募集 夏季締切 9 月 28 日	70
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	70
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い	72
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ	72
○第 15 回 (2013 年)「日本水大賞」の募集について 締切 11 月 30 日	73
○第 61 回北海道支部研究発表会の開催について (第 1 報) ㊦ 発表申込締切 8 月 31 日	73
○平成 24 年度東北支部総会・第 55 回東北支部研究発表会ならびに第 45 回東北支部研修会・ 第 35 回地方講習会の開催について (第 3 報) ㊦ 発表申込締切 8 月 31 日	74
○第 67 回中国四国支部講演会ならびに第 36 回地方講習会の開催について (第 2 報) ㊦ 講演原稿締切 8 月 31 日	75
○九州支部第 93 回講演会・ポスターセッション 第 35 回講習会・シンポジウム・現地見学会の開催について (第 2 報) ㊦ 投稿締切 9 月 10 日	77
○第 22 回農村道路研究部会研究集会・現地研修会の開催について (第 1 報) ㊦ 11 月 1, 2 日開催	78
○農地保全研究部会第 33 回研究集会の開催について (第 2 報) ㊦ 申込締切 9 月 20 日	79
農業農村工学会論文集第 280 号内容紹介	80
学会記事	82

### 第 80 巻第 9 号予定

展望：水土・環境観測の最前線によせて：登尾浩助

小特集：水土・環境観測の最前線

- ①レーザー距離計を用いた現場土水路の水路床勾配の計測方法：廣内慎司ほか
- ②農家参加型モニタリングによるリング栽培技術の継承：加藤 幸ほか
- ③携帯電話通信網を利用したフィールドデータ伝送システム：繁永幸久ほか
- ④水土動態予測のための表計算ソフトウェアによるモデリング：粟生田忠雄
- ⑤東日本大震災復旧における環境配慮のための環境情報の管理・活用：北澤大祐ほか
- ⑥農業農村の振興と活性化に及ぼす事業効果計測手法の開発：木下貴裕ほか

### 技術レポート

- 北海道支部：頭首工護床工の災害復旧について：中村 優ほか  
 東北支部：新鳴瀬橋の機能診断と保全対策：森田政博ほか  
 関東支部：高強度コンクリートパネルによる頭首工エプロンの補修事例：太田純治  
 京都支部：開削型シールド工法による大断面排水路の施工：大谷 寛ほか  
 中国四国支部：降水量と気温を用いた積雪深の推定方法：橋本敏行ほか  
 九州支部：自立式杭壁工法による貯水池の施工：多和田真澄ほか

小講座：農地情報モニタリングシステム：溝口 勝

私のビジョン：育児休業からの復帰大作戦!!：武藤由子

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

㊦のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成24年9月6, 7日	農村計画研究部会	第34回現地研修集会 ㊦	悠久の歴史を紡ぎ未来に繋ぐ農山漁村—美ら島・美ら海を巡る宝物語—	那覇市ほか	80巻4,6号
平成24年9月18~20日	大会運営委員会	平成24年度農業農村工学会大会講演会 ㊦	—	札幌市	79巻12号 80巻1,3号
平成24年10月17日	関東支部	第63回支部大会講演会・講習会(シンポジウム) ㊦	—	さいたま市	80巻6,7号
平成24年10月18, 19日	畑地整備研究部会	第49回畑地かんがい研究集会 ㊦	自然再生エネルギーを活用した畑地農業振興	京都市	80巻7号
平成24年10月25, 26日	東北支部	平成24年度総会・第55回研究発表会・第45回研修会・第35回地方講習会 ㊦	—	秋田市	80巻6,7,8号
平成24年10月30日	北海道支部	第61回研究発表会 ㊦	—	札幌市	80巻8号
平成24年11月1, 2日	中国四国支部	第67回支部講演会・第36回地方講習会 ㊦	—	岡山市	80巻5,8号
平成24年11月1, 2日	九州支部	第93回講演会・ポスターセッション・第35回講習会・シンポジウム・現地見学会 ㊦	—	長崎市	80巻7,8号
平成24年11月1, 2日	農村道路研究部会	第22回研究集会・現地研修会 ㊦	農道管理者(市町村, 土地改良区)から見た農道保全対策	札幌市・千歳市	80巻8号
平成24年11月8日	資源循環研究部会	平成24年度研究発表会 ㊦	資源循環技術を活用した強い地域づくりを目指して	東京都	80巻6号
平成24年11月20, 21日	農地保全研究部会	第33回研究集会 ㊦	東日本大震災に伴う津波被害・対策とその後	仙台市ほか	80巻6,8号
平成24年11月21日	京都支部	第69回研究発表会 ㊦	—	新潟市	80巻4,6号

### 平成24年度会員名簿の掲載事項について

平成24年度版の当学会会員名簿の発行に係る掲載事項については、個人情報の保護に関する法律の規定に基づき、従来どおり当学会の「会員名簿の発行に伴う個人情報の扱い」により対処しますので、掲載事項としている下記の事項について、掲載に同意されないものがあれば、会員番号と氏名を明記のうえ、郵送、E-mail または FAX で、10月10日(水)までにご連絡下さい。(非掲載項目につきましては、前年度までにご連絡を頂いていて、変更のない場合は再度ご連絡を頂かなくても結構です。)

なお、ご連絡がない場合は、下記事項の掲載に同意されたこととさせていただきます。

#### 記

##### 会員名簿掲載事項

- ①【氏名】 ②【会員番号】 ③【出身校】 ④【卒年】  
⑤【資格】 ⑥【勤務先および役職】 ⑦【自宅住所】  
⑧【自宅電話番号】

##### 連絡先

郵送の場合：〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会 馬目あて

E-mail の場合：manome@jsidre.or.jp

FAX の場合：03-3435-8494

(参考)

会員名簿発行に伴う個人情報の扱い

以下の項目を遵守することによって、個人情報取扱義務を全うする。

- 利用目的の特定、利用目的による制限  
農業農村工学会会員名簿の作成業務及び会員管理にのみ利用し、この範囲を超えて利用しない。
- データ内容の正確性の確保  
個人情報の正確性、最新性を確保する。
- 安全管理措置、従業者、委託先の監督  
安全管理のために、学会職員、印刷業者等に対して必要かつ適正な監督を行う。
- 第三者提供の制限  
名簿は、公益社団法人農業農村工学会定款第6条に定める会員及び同会員が所属する機関に限り原価にて頒布する。

## 「資格試験のための農業農村工学必携」刊行のお知らせ（再）

この度、「資格試験のための農業農村工学必携」を刊行しましたので、お知らせいたします。

本書は「改訂七版農業農村工学ハンドブック（平成22年発行）」を再編集してコンパクトにまとめたもので、資格試験に挑戦する人にとっては農業農村工学の全容を短時間で確認するテキストとして、また、農業農村工学を学ぶ学生にとっては教科書として利用できるものです。さらに、要所には、資格試験で過去に出された問題を確認テストとして挿入しており、理解度の自己点検も行える内容となっています。

是非ご購入の上、お役立て下さい。

記

**書名** 資格試験のための農業農村工学必携

**編者** 公益社団法人 農業農村工学会

**発行** 平成24年6月8日

**体裁** B5判 約550ページ

**価格** 定価 2,700円（税込・送料学会負担）

※会員価格の設定はありません。

**購入方法**

◆賛助会員・公費（官庁や自治体、国公立大学等）での購入

注文書（書式任意）に注文内容、送付先住所、所属、担当者名を記入の上、FAX、E-mail、または郵便にてご注文下さい。お電話によるご注文は受け付けておりません。

◆個人・法人での購入

ご注文は代金先払いまたは代金引換で承ります。図書発送の送料は当学会で負担します。

①郵便振替

口座番号 00160-8-47993

加入者名 公益社団法人農業農村工学会

払込取扱票の通信欄に注文内容をご記入下さい。

②現金書留

注文書（書式任意）に図書代金を添えてお送り下さい。

③代金引換

注文書（書式任意）をFAXかE-mailでお送り下さい。

別途代引手数料がかかりますのでご了承願います。

◆申込先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階

公益社団法人 農業農村工学会 事務局

FAX 03-3435-8494 E-mail: suido@jsidre.or.jp

## 平成25年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再）

平成25年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、本誌80巻6号72～73ページ掲載の募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切は、平成24年10月末日です。推薦書様式および、受賞規程は学会HPをご参照下さい。

## 平成24年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について（再）

### 研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度（原則1件20万円以内）です。

本年度の申請締切は平成24年9月14日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。

2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。

3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割

を対外的に示すことに貢献しうること。

- (ロ)「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

5. 活動報告: 助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役

立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請方法

締切: 平成24年9月14日(金)

申込先: 戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail: tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項:

- (1) WG名(または部会名) (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

### 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成23年度までに61件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行: みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替: 00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

### 農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

#### 災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年ごと更新)に記載して、緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局(FAX 03-3435-8494, E-mail: saigai@jsidre.or.jp)までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/>)よりダウンロードして下さい。多数のご登録をお待ちしております。

なお、登録いただいた個人情報、災害対応調査にのみ使用し、適切に取り扱います。

## CPD 研鑽記録提出に当たり Web システム利用を！

農業農村工学会技術者継続教育機構では、急激な登録者数の増加による研鑽記録審査量の増加や、CPD を取り巻く社会の利用状況の変化に対応すべく、研鑽記録の提出について「Web システム」を、平成 24 年 2 月下旬より導入しました。

Web システムを利用して研鑽記録をご提出いただければ早期に CPD ポイント取得結果を確認することができ、当該年度内であっても証明書の発行が可能となりますので、是非とも

Web システムをご利用下さいますようお願いいたします。

なお、当面は従来の Excel 形式での「継続教育記録ノート」の提出も受け付けますが、その場合の審査結果は従来どおり「8 月送付」となります。

詳細については、技術者継続教育機構のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd/>) をご覧下さい。

## 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

### 行事企画委員会

### 技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

行事企画委員会では、技術者継続教育機構の個人登録者となっている学会員が、CPD 単位取得を在宅で手軽に取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より学会誌上を通じて「CPD 通信教育」を実施しています。これまでの実績として、毎回 80% 以上の解答者が 2 CPD ポイントを取得しており、自己学習での年間最大 10 CPD ポイントとは別に、通信教育分として年間最大 24 CPD ポイントを取得するチャンスとなっています。是非、通信教育へご解答をお寄せ下さい。

なお、3 月号で「今後は Web 画面上のみで受付」と周知いたしましたが、2013 年 (Vol. 81) 2 月号の解答受付分までは従来の Excel ファイルでの解答も受け付けさせていただきます。

#### 1. 解答資格

解答ができる資格としては、農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者に限ります。学会へのご入会および技術者継続教育機構の CPD 個人登録をされていない方は、まず農業農村工学会のホームページから入会申込書をダウンロードし入会手続きを行い、農業農村工学会員番号を取得された後、技術者継続教育機構の Web 画面上から新規登録手続きを行って下さい。

#### 2. 出題方法

出題は 3 カ月前に発行された学会誌の報文等の事実的な内容から、CPD 運営委員会通信教育部会が作成し学会誌上に掲載します。問題は択一式で、毎回 10 問を出題します。

#### 3. Web 利用登録と解答方法

Web で解答をするためには Web 画面上で「Web 利用登録」をして下さい。(Web 画面上で解答ができるようになるまでには、登録に約 1 週間程度を要します。)「Web 利用登録」をされた約 1 週間後に、Web 画面上で解答画面にアクセスし、正解と思う番号を入力し、送信して下さい。

#### 4. 解答期限

解答期限は「問題掲載月号の翌月末日まで」です。期限を過ぎた解答の受け付けは一切できませんので、十分ご注意ください。なお、解答期限内であれば、Web 画面上で何度でも解答を訂正し送信することができますが、その場合は解答期限の直近に送信をした解答が有効となります。

#### 5. CPD ポイントの採点と取得結果の照会可能時期、およびポイント集計年度区分

採点は解答期限後に行い、全問正解で 2 CPD ポイント、7～9 問正解で 1.5 CPD ポイントを自動的に登録いたします。取得した CPD ポイントは解答期限の約 1 カ月後に Web 画面上で確認することができ、CPD 取得証明書の発行が可能です。なお、通信教育における当該年度分 CPD 取得ポイントとは、前年度の 2 月号出題分から当該年度の 1 月号出題分までの 12 カ月に出版された問題への解答に該当します。

\*解答は技術者倫理に則り、自らの責任で作成して下さい。

## 論文集の電子投稿・査読システムを導入しました

### 論文集編集委員会

論文集編集委員会では、電子投稿・査読システムを平成 24 年 3 月 26 日より導入いたしました。

利用システムは現在世界的に広く普及している ASP (Application Service Provider) の Editorial Manager です。Editorial Manager はすでに水文・水資源学会や地盤工学会で導入され

ており、日本でも実績があります。

新規投稿は電子投稿・査読システムでの運用となります。ただし、平成 24 年 3 月 25 日までに投稿され審査中のものについては、本システムの利用はできません。

「投稿の手引き」(学会ホームページ <http://www.jsidre.or.jp>)

/に掲載)を熟読の上、ご投稿下さい。

<http://www.jsidre.or.jp/publ/ronbun/index.html>

投稿先 URL

## 平成 25 年の表紙写真の募集

### 学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成 25 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

#### 趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

#### 記

#### 1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

#### 2. 対象巻号

学会誌第 81 巻 (平成 25 年 1~12 月号)

#### 3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで (デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定) 撮影して下さい (サイズは六ツ切)。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

#### 4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

#### 5. 締 切

夏季 平成 24 年 9 月 28 日

#### 6. 審 査

審査委員会 (編集委員と写真家) で選考します。

#### 7. 結果発表

学会誌第 81 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 25 年度大会会場でパネル展示します。

#### 8. 謝 礼

採用作品には規定の賞金 (1 点につき 3 万円) をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

#### 9. 「Cover History (表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」をご執筆いただきます。執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

#### 10. 使用権

採用作品の使用権は公益社団法人農業農村工学会に属します。

#### 11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること (花などの情緒物に埋没しないこと)、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

#### 12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ (フィルム、使用カメラ等)、対象物の固有名詞 (固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: [suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)

「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております！

### 学会誌編集委員会

#### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 80, 81 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
80 巻 9 号 水土・環境観測の最前線 (仮)	公募終了
10 号 小特集なし	
11 号 農業農村整備事業は千差万別, 津々浦々 (仮)	公募終了
12 号 世界の水議論と農業用水 (仮)	公募終了
81 巻 1 号 大規模経営体の育成と農業農村整備事業 (仮)	9 月 14 日
2 号 農業水利施設を活用した小水力発電への取組み (仮)	9 月 28 日
3 号 農山漁村地域の再生に向けた GIS 活用の事例, 課題と展望 (仮)	10 月 31 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4  
公益社団法人 農業農村工学会  
農業農村工学会誌編集委員会あて  
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494  
E-mail : henshu@jsidre.or.jp

81 巻 1 号テーマ「大規模経営体の育成と農業農村整備事業」(仮)

「我が国の食と農林漁業の再生のための基本方針・行動計画」(平成 23 年 10 月 25 日食と農林漁業の再生推進本部決定)では、農地集積の加速化と農業の高付加価値化などにより、わが国農業の体質を強化することを目指しています。

この目標の実現に向けては、農地の大区画化・汎用化や農業水利施設の整備などの農業基盤上の条件整備が重要であり、農業農村整備事業は上記「基本方針・行動計画」の実現に重要な役割を果たしているものです。

さらに、新たな土地改良長期計画(平成 24 年 3 月 30 日閣

議決定)においても、「農地の大区画化・汎用化等による農業の体質強化」という政策目標を達成するための施策の一つとして、農地の大区画化などと地域の中心となる経営体への農地集積を推進することとしています。

そのため、本特集では、農業農村整備事業を通じて農地集積の推進と大規模経営体の育成が図られている地域について、基盤整備や大規模経営体の育成に至るまでの合意形成の過程や課題に関する報文を募集します。

81 巻 2 号テーマ「農業水利施設を活用した小水力発電への取組み」(仮)

地球温暖化防止対策に対する取組みとして、温室効果ガスを排出しない再生可能エネルギーへの転換を図ることは重要な課題となっています。平成 24 年 7 月から施行される再生可能エネルギーの全量固定価格買取制度(全量買取制度)を契機として、農業水利施設を利用した小水力発電への期待が高まりつつあり、全国各地の用水路やため池などに潜在する未利用のエネルギーを開発していくことは、今後より一層重要になってくるものと考えられます。

このようなことから、農業水利施設を活用した小水力発電に関する事例の紹介、新たな制度に対する課題、新技術の提案などを通じて情報や知識の共有を図ることは、小水力発電技術の導入に取り組む行政機関や施設管理を行う土地改良区などの技術者にとって、きわめて有意義であると考えられます。

そこで、本小特集では、農業水利施設を活用した小水力発電の取組みについて、各地で実施されている検討事例、動向、展望などに関する報文を広く募集します。

81 巻 3 号テーマ「農山漁村地域の再生に向けた GIS 活用の事例, 課題と展望」(仮)

昨年発生した 3.11 東日本大震災は、東北地方を中心に多大な被害を及ぼしました。この震災を契機に、ツイッターやフェイスブックなど IT 活用が活発化して新たな段階に入ったようにも思われます。このような中で、GIS は被災状況の把握や分析に対して威力を発揮し、「見える化技術」として各方面で活用されてきています。

農業農村整備分野では、水土里情報利活用促進事業として農

地や水利施設のデータベースが構築されてきましたが、今後これらのデータベースをどのように利活用していくかが課題となっています。また、被災地の復興も含め、農山漁村地域の再生や振興、特に農地保全が重要な課題であります。

本特集では、農業農村地域の再生に向けた“農地保全”“施設管理”や“地域振興”に対する GIS の活用事例、課題と展望についての報文を募集します。

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)

- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

出版社 : Springer-Japan 社

発行スケジュール : 年4回 (3, 6, 9, 12月)

購読料 : 正会員 12,000 円

学生会員 (院生含む) 8,500 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

申込先 : 農業農村工学会編集出版部 中村あて

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012年1月から2014年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2012年9月末に Vol. 10, No. 3 が発行されます。

本ジャーナルは2009年12月より、トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価を得ております。

また、世界13カ国から Editor (23名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員で PWE 誌の購読者に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012年1月から2014年12月までの編集事務局は日本です。

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用下さい。

編集事務局 : Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.

6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581

Fukuoka, Japan

TEL : +81-92-642-2909 FAX : +81-92-642-2914

E-mail : [yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp](mailto:yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp)

編集方針 : 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

• Editor-in-Chief : Dr. Masaru Mizoguchi (Japan)

Graduate School of Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

• Editors 13カ国から23名

• Editing Board 35名

• Managing Editors

Chief Management Editor : Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin Lin

Dept. of Bioenvironmental Systems, Engineering National Taiwan University, Rep. of China  
**Dr. CHOI, Jin Yong**  
 Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Korea

出版社：Springer-Japan 社  
 投稿資格：筆者が農業農村工学会員で **PWE 誌** の購読者であること。  
 投稿要領等：http://pawe.edmgr.com/に詳細を記載しています。

## 第 15 回(2013 年)「日本水大賞」の募集について

### 1. 目的

日本水大賞は、21 世紀の日本のみならず地球全体を視野に入れて、水循環の健全化を目指し、美しい水が紡ぎ出す自然の豊かさの中にも水災害に対して強靱な国土と社会の実現に寄与することを目的としています。

### 2. 対象範囲

#### (1) 対象となる活動分野

水循環系の健全化や水災害に対する安全性の向上に寄与すると考えられる活動で、水防災、水資源、水環境、水文化、復興支援のような分野における諸活動（研究、技術開発を含む）を対象とします。

#### (2) 対象となる活動主体

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、学校、企業、団体、個人、行政の方々が実施する諸活動を対象とします。なお、個人、法人、グループの種別、年齢、職業、性別、国籍等を問いません。

### 3. 日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して以下の賞を授与し、広く公表します。なお、副賞は受賞活動を更に継続していただくよう授与しています。

- ①大賞【グランプリ】(賞状・副賞 200 万円)
- ②大臣賞 (賞状・副賞 50 万円)  
**【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】【厚生労働大臣賞】  
 【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】【経済産業大臣賞】**
- ③市民活動賞【読売新聞社賞】(賞状・副賞 30 万円)
- ④国際貢献賞 (賞状・副賞 30 万円)
- ⑤未来開拓賞 (賞状・副賞 10 万円)
- ⑥審査部会特別賞 (賞状・副賞 10 万円)
- ⑦タイムリー賞 (公募なし)

### 4. 選定の方法等

日本水大賞委員会の下に、上記の賞を選考するために各々の審査部会を設置し、表彰対象となる活動を審査し、最終的には

日本水大賞委員会が決定します。

### 5. 募集期間

平成 24 年 7 月 7 日(土)～11 月 30 日(金)(郵送の場合  
 は当日消印有効)

### 6. 応募方法

応募用紙(3 枚：ホームページからダウンロードして下さい)に必要事項をご記入の上、応募用紙および添付資料を事務局あてに送付または持参して下さい。応募用紙および添付資料が電子データの場合は、E-mail でも応募を受け付けます。

応募方法の詳細はホームページを参照して下さい。

### 7. 審査結果の公表

審査の結果は、平成 25 年 3 月下旬に公益社団法人日本河川協会のホームページおよび新聞紙上にて公表する予定です。入賞者には個別にご連絡いたします。

### 8. 主催等

- (1) 主催 日本水大賞委員会  
 名誉総裁 秋篠宮文仁殿下  
 委員長 毛利 衛 (日本科学未来館館長)
- (2) 後援 環境省、外務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、公益社団法人農業農村工学会ほか 34 団体
- (3) 協賛 「川の日」実行委員会ほか 4 団体

### 9. 送付先・問合せ先

【日本水大賞委員会事務局】  
 公益社団法人 日本河川協会  
 〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-6-5 麹町 E.C.K ビル 3 階  
 ☎03-3238-9771 FAX 03-3288-2426  
 E-mail : taisyo@japanriver.or.jp  
 担当：川向、佐藤 (平日 9：15～17：30)  
 ホームページ：http://www.japanriver.or.jp/taisyo/

<「日本水大賞」は、(財)河川環境管理財団河川整備基金の助成を受けて実施しています>

## 第 61 回北海道支部研究発表会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



- 1. 期 日 平成 24 年 10 月 30 日(火)
- 2. 会 場 札幌市・北海道大学学術交流会館 2 階講堂  
 (札幌市北区北 8 条西 5 丁目・北大正門すぐ)
- 3. 研究発表申込み

発表を希望する方は投稿原稿に先立ち、発表表題・発表者名と発表形式の希望(口頭またはポスター)を E-mail, FAX または郵送にてお申し込み下さい。

発表申込みの締切は平成 24 年 8 月 31 日(金)です。

発表申込者には折り返し講演集原稿作成要領をお送りします。

講演集原稿の締切は平成24年9月28日(金)です。

#### 4. 参加申込み

右記様式により、E-mail, FAX または郵送にてお申し込み下さい。

参加申込締切は平成24年10月15日(月)です。

#### 5. 発表・参加申込先

〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内  
農業農村工学会北海道支部事務局

担当：柏木淳一 E-mail: kashi@envagr.hokudai.ac.jp

☎011-706-3641 FAX 011-706-2494

#### 6. 参加費用

2,000円(当日会場にて申し受けます。)

#### 【申込様式】

所属機関	_____	
同上所在地	_____	
申込代表者	_____ TEL _____	
氏名	所属	備考

### 平成24年度東北支部総会・第55回東北支部研究発表会 ならびに第45回東北支部研修会・第35回地方講習会の開催について(第3報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期日 平成24年10月25日(木), 26日(金)

2. 会場 秋田ビューホテル

〒010-0001 秋田市中通2-6-1

☎018-832-1111 FAX 018-833-6957

会場への案内

(1) JR利用の場合

・JR秋田駅西口から徒歩2分

(2) 航空機利用の場合

・秋田空港より空港連絡バスで約40分

・空港連絡バス秋田駅前バス停下車, 徒歩2分

※会場周辺の駐車場はすべて有料となっております。

#### 3. プログラム

<第1日目>10月25日(木)

(1) 総会ならびに研究発表会

9:00~9:30 受付

9:30~10:15 支部総会

10:15~10:45 支部賞授賞式

10:45~11:00 休憩

11:00~12:20

・特別講演~東日本大震災からの復興に向けて~

「被災地の現状と復興地域づくり」

岩手大学農学部教授 広田純一

12:20~13:15 昼食・休憩

13:15~17:15 第55回支部研究発表会

(2) 情報交換会

18:00~20:00 会場:秋田ビューホテル

<第2日目>10月26日(金)

(3) 支部研修会・地方講習会

9:00~9:30 受付

9:30~9:40 開会挨拶

9:40~12:00 第45回支部研修会

テーマ:地域資源を活かした農村づくり

・基調講演

国際教養大学地域環境研究センター長 熊谷嘉隆

・事例紹介

①大館市立釈迦内小学校校長 五十嵐 経

②「ふれあい直売十文字」代表 鷹田芳子

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~15:20 第35回地方講習会

①土地改良施設管理基準「頭首工編」の改定

農村振興局整備部水資源課課長補佐 佐藤 功

②小水力発電について

東北農政局整備部水利整備課

15:20~15:30 閉会挨拶

#### 4. 研究発表申込方法

(1) 研究発表申込み・問合せ先

研究発表要旨集原稿に投稿票を添えて, 下記にお申し込み下さい。なお, 震災関連の研究発表会場を別途設置する予定ですので, 奮って投稿して下さい。

〒010-0444 南秋田郡大潟村字南2-2

秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科

永吉武志 または 近藤 正 まで

☎0185-45-3915 (永吉) 0185-45-3918 (近藤)

FAX 0185-45-2377 E-mail: tnaa@akita-pu.ac.jp

(2) 要領

研究発表要旨集原稿・投稿票の書き方については下記の農業農村工学会ホームページを参照して下さい。

<http://www.jsidre.or.jp/newinfo/24shibu/>

(3) 発表時間・発表手段

発表時間は15分以内(発表12分, 質疑3分)

発表補助手段: パソコン, CD-R, USBメモリ使用可

(各会場PCは, OS Windows, ソフト Power Point 2003)

(4) 研究発表申込み受付期間

平成24年8月10日(金)~31日(金)【締切厳守】

#### 5. 参加申込み

(1) 参加申込みは, 農業農村工学会ホームページ (<http://>

www.jsidre.or.jp/)内の平成24年度東北支部研究発表会・研修会・地方講習会の申込みについて(トップページ「事務局からのお知らせ」欄)にアクセスし、参加申込書をダウンロードして下さい。参加申込書に必要事項を記入の上、メール、FAXまたは郵送にて下記6.申込先まで送付いただきますようお願いいたします。

- (2) 申込期限 平成24年9月21日(金)
- (3) 参加費内訳  
 総会ならびに研究発表会 3,000円(学生会員2,000円)  
 支部研修会ならびに地方講習会  
 7,000円(非会員8,000円)  
 情報交換会 5,000円(学生会員3,000円)  
 なお、両日の昼食(弁当)を1,000円/個で事前予約にて受け付けています。ご希望の方は参加申込書にてお申し込み下さい。

- (4) 参加費の納入  
 参加申込みを受け付けた後、トップツアー(株)秋田支店より9月中旬以降に確認書・請求書を送付致しますので、内容を確認のうえ、参加費を「6.申込・問合せ・振込先」の振込先へ10月12日(金)までにお振込み下さい。振込手数料については振込人負担でお願い致します。

なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしかねますのでご了承下さい。

- (5) 東北支部大会特別企画〈大潟村現地見学会〉  
 支部大会参加者を対象に、大会前日の10月24日(水)午後より、大潟村現地見学会を開催します。20世紀最大の大事業と言われる八郎潟干拓の歴史に触れながら、壮大な農地と農業水利施設の見学を予定しております。参加費は1,000円とし、先着40名程度とさせていただきます。希望者は参加申込書の現地見学希望欄に○印を記入の上、お申し込み下さい。

〈大潟村現地見学会の内容〉

10月24日(水) JR秋田駅東口にバスを用意します。

13:30に出発し、大潟村南部排水機場や大潟村干拓博物館を見学し、17:00に到着する予定です。

- (6) 宿泊施設の斡旋  
 宿泊の斡旋は、トップツアー(株)秋田支店を通じて行います。

ご要望の方は、参加申込書にある宿泊施設一覧表の中からホテルをお選びいただき、該当するホテルの記号を参加申込書に記入して下さい。なお、客室数の都合上、ご希望に添えない場合がございますのでご了承下さい。

- (7) その他  
 託児をご希望の場合は、申込み時に事務局までご連絡下さい。

6. 申込・問合せ・振込先

- (1) 申込・問合せ先  
 トップツアー(株)秋田支店  
 「平成24年度 農業農村工学会東北支部秋田大会係」  
 〒010-0951 秋田市山王2-1-40  
 E-mail: nousonkougakukai@toptour.co.jp  
 ☎018-866-0109 FAX 018-866-0177  
 営業時間: 平日9:40~17:30 土曜日9:40~12:30  
 (日曜日・祝日休業)

- (2) 振込先  
 銀行名 秋田銀行 県庁支店(店番号116)  
 口座番号 普通 491628  
 口座名義 トップツアー株式会社秋田支店  
 ※手数料は振込人負担でお願いします。

7. 事務局

秋田県農林水産部農地整備課内  
 平成24年度農業農村工学会東北支部秋田大会事務局  
 担当 佐藤, 小野寺, 藤田  
 ☎018-860-1821 FAX 018-860-3863  
 E-mail: onodera-hirataka@pref.akita.lg.jp  
 Fujita-Yuuki-124@pref.akita.lg.jp

第67回中国四国支部講演会ならびに第36回地方講習会の開催について(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日程

- (1) 支部講演会  
 日時: 平成24年11月1日(木)9:30~17:00  
 会場: 岡山衛生会館  
 〒703-8278 岡山県岡山市中区古京町1-1-10  
 ☎086-272-3275 FAX 086-272-3256  
 http://www.okayama.med.or.jp/eiseikaikan/  
 プログラム:  
 受付開始 9:30  
 開会式 10:15~10:30(5F中ホール)

- 支部賞表彰式 10:30~10:50 ( )  
 特別講演 11:00~12:00 ( )  
 講師: 橘 徹(土質工学(株)技術部長,  
 博士(工学))  
 テーマ: 中四国地域における津波と津波災害  
 - 東日本大震災から学ぶ -  
 〈昼食 12:00~13:00〉  
 一般講演 13:00~17:00  
 第一会場 5F中ホール  
 第二会場 5F第1会議室

## 第三会場 3F 第3会議室

## (2) 情報交換会

日時：平成24年11月1日(木) 18:00~20:00

会場：ピュアリティまきび

〒700-0907 岡山県岡山市北区下石井 2-6-41

☎086-232-0511 FAX 086-224-2995

http://www.makibi.jp/

## (3) 地方講習会

日時：平成24年11月2日(金) 9:00~12:00

会場：岡山衛生会館

〒703-8278 岡山県岡山市中区古京町 1-1-10

TEL 086-272-3275 FAX 086-272-3256

http://www.okayama.med.or.jp/eiseikaikan/

内容：「土地改良施設管理基準 頭首工編」(仮)

「農村振興と再生可能エネルギー」(仮)

## 2. 講演申込み

## (1) 投稿・講演要領

## 1) 講演原稿

投稿原稿は、図、表、写真などを含め1課題3ページ以内とします。

投稿者は、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) の支部講演会投稿要領に従って原稿を作成し、原稿をPDFにしたファイルと投稿票をメールにより下記の講演申込先までお送り下さい。投稿票ファイルは学会のホームページからダウンロードして下さい。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」として下さい。受領確認はメールで返信しますので、受領はがきは不要です。なお、発表時間や発表方法などについての連絡をとる場合がありますので、講演者(○印)の方は必ず連絡先メールアドレスをお書き下さい。

原稿はPDFを原則としますが、それが可能でない場合は市販のA4判上質紙(コピー用紙などをご利用下さい。感熱紙は不可)に印字したモノクロ原稿を、前記の学会ホームページ掲載の1.支部講演会投稿要領(3)に従って投稿票とともに郵送して下さい。

## 2) 講演資格

発表者のうち、少なくとも1名が学会員であることが必要です。

## 3) 講演方法

個人発表とし、講演補助として液晶プロジェクターのみ準備します。

## 4) 講演時間

1課題につき12分程度です。

## 5) 講演要旨集

申込みのあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、印刷はモノクロとなります。

## 6) 参加申込み

講演者は、講演申込みとは別途に参加申込み(下記3.)も行い、必ず参加費を納入して下さい。

## 7) 原稿の締切

平成24年8月31日(金) 必着(遅延は不可)

## (2) 優秀賞・研鑽賞・奨励賞の表彰条件

優秀賞・研鑽賞・奨励賞の受賞対象者について、学会ホームページの支部所在地・各支部のページ (<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>) に掲載しておりますので、投稿者の方は事前にご確認下さい。

## 3. 参加申込方法

## (1) 申込書

参加申込みについては、以下の申込様式に従い、所属機関ごとにまとめて、メールにより下記(5)の参加申込先までお送り下さい。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会参加申込み」として下さい。様式は学会ホームページの支部所在地・各支部のページ (<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>) からダウンロードできます。

## 【申込様式】

第67回農業農村工学会中国四国支部講演会ならびに  
第36回地方講習会参加申込書

所属機関名：  
所在地：(〒 - )  
連絡者名(ふりがな)：  
電話番号：  
FAX番号：  
E-mailアドレス：

所属	氏名	ふりがな	講演希望	【1日】		【2日】	合計 (円)	備考
				講演会 参加費 (3,000円)	昼食 (1,000円)	情報 交換会 (5,000円)		
計								

注1) 参加または昼食申込みの場合は○印、不参加または昼食不要の場合は×印をご記入下さい。

注2) 講演者は、講演希望欄に必ず○をご記入下さい。

注3) 1日の講演会の昼食は、当日受付で配付する「弁当引換券」によりお渡しします。

## (2) 申込締切日 平成24年9月7日(金)

## (3) 参加費等

講演会参加費 3,000円

※講演者を含め、講演会に参加される方は必ずお支払い下さい。

昼食代 1,000円

情報交換会 5,000円

地方講習会 3,000円(非会員 4,000円)

## (4) 参加費等の納入方法

参加申込みと同時に次の銀行口座に全額前納をお願いします。振込手数料については、振込人負担をお願いします。

また、振込み元がわかるように、所属・氏名等は必ずご

記入下さい。

なお、振込み後の参加費等の返金には原則応じられませんのでご注意ください。

【振込口座】

銀行名：中国銀行 県庁支店  
 店番号：107  
 口座番号：普通 1427341  
 名義人：農業農村工学会中国四国支部 岡山県実行委員会  
 (ノウギョウノウソンコウガクカイチュウゴク  
 シコクシブオカヤマケンジッコウイインカイ)

(5) 申込および問合せ

- 1) 情報交換会および地方講習会に関する問合せ先  
 岡山県農林水産部耕地課 金井, 川上

〒700-8570 岡山県岡山市北区内山下 2-4-6

☎086-226-7434 FAX 086-222-9621

E-mail : toshiki\_kanai@pref.okayama.lg.jp  
 jiyun\_kawakami@pref.okayama.lg.jp

2) 講演申込み・参加申込みおよび支部講演会に関する問合せ先

岡山大学大学院環境学研究科 藤澤和謙  
 〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1  
 ☎086-251-8154 FAX 086-251-8881  
 E-mail : kazunori@cc.okayama-u.ac.jp

(6) 宿泊案内

実行委員会事務局では、宿泊の斡旋・手配等はいたしませんので、各自でのご対応をお願いいたします。

九州支部第93回講演会・ポスターセッション  
 第35回講習会・シンポジウム・現地見学会の開催について (第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日時

平成 24 年 11 月 1 日 (木)  
 9:30~17:00 講演会・ポスターセッション  
 平成 24 年 11 月 2 日 (金)  
 9:30~16:50 講習会・シンポジウム (午前)  
 現地見学会 (午後)

2. 会場 (講演会・ポスターセッション・講習会・シンポジウム)

長崎新聞文化ホール アストピア  
 〒852-8104 長崎市茂里町 3-1 ☎095-844-2412  
 ※ホームページアドレス

<http://www.nagasaki-np.co.jp/company/culture/astopia.html>

※【JR】JR 浦上駅から徒歩 3 分

【路面電車】茂里町電停 (長崎駅電停より赤迫行き約 5 分。大人片道 120 円) から徒歩 2 分

【バス】ココウォーク茂里町バス停 (長崎駅バス停より約 4 分。大人片道 150 円) から徒歩 2 分

3. プログラム

(1) 11 月 1 日 (木) 講演会・ポスターセッション

- ① 9:00~9:30 受付  
 ② 9:30~10:00 開会式 (翔鶴の間(2F))  
 ③ 10:00~10:20 支部賞表彰式 (翔鶴の間(2F))  
 10:20~10:30 (休憩)  
 ④ 10:30~17:00 講演会  
 第1会場 翔鶴の間(2F)  
 第2会場 珊瑚の間(3F)  
 第3会場 真珠の間(3F)  
 ⑤ 12:00~16:30 ポスターセッション

2F ロビー展示スペース

⑥ 16:30~17:00 ポスターセッション表彰式

(2) 11 月 2 日 (金) 講習会

場所：第2会場 珊瑚の間(3F)  
 時間：9:30~11:00  
 課題：「土地改良施設管理基準『頭首工』について」(仮)

(3) 11 月 2 日 (金) シンポジウム

場所：第3会場 真珠の間(3F)  
 時間：9:30~11:20  
 課題：「九州と沖縄における土と水に関する諸課題」(仮)

(4) 11 月 2 日 (金) 現地見学会

集合時間：12:20  
 集合場所：長崎新聞文化ホール アストピア  
 予定コース：(出発) 長崎新聞文化ホール アストピア  
 12:30→13:30 諫早湾干拓堤防管理事務所・諫早湾干拓潮受堤防 14:40→15:10 諫早湾干拓管農支援センター・中央干拓地 16:10→16:40 JR 諫早駅 16:50→17:40 長崎駅 (解散)

(※参加人数が 25 名に満たない場合は、中止する場合がございますのでご了承下さい。)

4. 参加費用

	11 月 1 日 (木)		11 月 2 日 (金)		
	講演会等参加費用	昼食(弁当)	講習会等参加費用	現地見学会	
				参加費用	昼食代
一般料金	6,000 円	1,000 円	2,000 円	3,000 円	1,000 円
学生料金	3,000 円	1,000 円	1,000 円	2,000 円	1,000 円

※会場周辺には大型商業施設 (みらい長崎ココウォーク) がありますので、こちらでも昼食が可能です。

## 5. 講演会の講演申込み

平成 24 年度の全体的な運営については長崎県が担当しますが、講演会等のプログラム編集は宮崎大学が担当します。講演申込み（原稿投稿先）は下記によりお申し込み下さい。なお、学生会員（学部生・研究生・大学院修士）は次項のポスターセッションに申し込むことが確認されています。対象となる学生会員は口頭発表ではなく、ポスターセッションにお申し込み下さい。

また、今年度から、過去 15 年以内に価値ある業績等を通算 3 回以上口頭発表した会員に授与する研鑽賞は自己申告となりましたので、受賞対象者は講演会投稿票に発表年度・講演題目を記入して下さい。

(1) 投稿締切 平成 24 年 9 月 10 日（月）厳守

(2) 投稿先・問合せ先

投稿先 E-mail : toyomitu@cc.miyazaki-u.ac.jp

問合せ先 〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1-1

宮崎大学農学部 豊満幸雄

TEL & FAX 0985-58-7234（直通）

(3) 投稿要領

講演希望者は、「講演要旨原稿」と「講演会投稿票（MS-Excel 形式）」を投稿先まで電子メールでお送り下さい。

講演要旨原稿は、PDF ファイルで投稿して下さい。

(4) 講演要旨原稿の書き方

図・表・写真等を含めて、1 題につき 2 ページまたは 4 ページとし、3 ページや 5 ページ以上の原稿は受け付けません。講演要旨原稿と講演会投稿票の作成方法および講演会投稿票（MS-Excel 形式）は、アドレス：[http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/tasumi/jsidre\\_kyushu24/](http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/tasumi/jsidre_kyushu24/)に掲載されていますので、参照またはダウンロードして下さい。

(5) 講演方法

1 題につき、質問・交代時間を含めて 10~12 分程度の発表を予定しています。なお、講演の補助機材としてパソコン（OS：Windows，ソフト：MS-PowerPoint 2010）とプロジェクターを事務局で用意しますが、OHP やスライドは準備しませんので、ご了承下さい。

## 6. ポスターセッションの申込み

原則として学生会員（学部生・研究生・大学院修士）を対象に募集します。ポスターセッションは、研究の背景や成果および将来への展望などを発表者と参加者が 1 対 1 の差し向かいで討議できるという口頭発表では実現しがたい特徴を備えてい

ます。また、発表者の中からポスター賞を若干名授与します。

ポスター申込みは講演会の講演申込みに準じることとなりますが、事前のポスター送付は不要です。上記 5. の講演会の講演申込みを参照の上、2 ページまたは 4 ページにて締切日までに講演要旨原稿 PDF ファイルと講演会投稿票（MS-Excel 形式）を電子メールで投稿下さい。

(1) 枚数

1 課題 A0 版 1 枚以内

(2) 掲示

ポスターは、11 月 1 日（木）12：00 までに本人の責任で所定の位置に掲示して下さい。当日は掲示用に 2.4 m（縦）×2.0 m（幅）のパネルを設置する予定です。

## 7. 参加申込方法

(1) 参加申込み

参加申込書を所属（大学）ごとに取りまとめ、メールおよび FAX で事務局へお申し込み下さい。講演およびポスターセッション希望者についても、申込みが必要です。

なお、参加申込書様式（MS-Excel 形式）は下記アドレスからダウンロードして下さい。

[http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/tasumi/jsidre\\_kyushu24/](http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/tasumi/jsidre_kyushu24/)

(2) 申込期限

平成 24 年 9 月 21 日（金）

なお、会場の都合により定員になり次第締め切りますので、お早めにお申し込み下さい。

(3) 参加費の納入

銀行振込か当日支払いとなります。どちらで納入するか、参加申込書へご記入願います。

10 月初旬以降に、請求書を送付致します。指定期日までにお振込みいただくか、当日会場にてお支払い下さい。

なお、振込後の参加費用等の返還には応じられませんので、御注意下さい。

(4) 宿泊について

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、ご了承下さい。

## 8. 参加申込先・問合せ先

農業農村工学会九州支部講演会・講習会運営事務局

長崎県農林部農村整備課 担当：野口，中島（宏）

〒850-8570 長崎市江戸町 2-13

☎095-895-2964（直通） FAX 095-895-2594

E-mail : k.nakajima427@pref.nagasaki.lg.jp（中島（宏））

## 第 22 回農村道路研究部会研究集会・現地研修会の開催について（第 1 報）

「農道管理者（市町村，土地改良区）から見た農道保全対策」

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農村道路研究部会では、以下のとおり第 22 回研究集会および現地研修会を開催しますので、ご案内申し上げます。多くの皆様の参加をお待ちしております。

1. 日時 平成 24 年 11 月 1 日（木） 研究集会  
平成 24 年 11 月 2 日（金） 現地研修会
2. 研究集会

(1) 日時：平成 24 年 11 月 1 日（木）13：00～17：00  
（受付 12：30～）

<http://homepage.kaderu27.or.jp/index.html>

(3) 参加費：4,000 円/人

(2) 会場：北海道立道民活動センター  
〒060-0002 札幌市中央区北 2 条西 7 丁目  
道民活動センタービル  
☎011-204-5100

### 3. 現地研修会

(1) 日時：平成 24 年 11 月 2 日（金）9：00～15：00  
(2) 研修地：札幌郊外，千歳（詳細は次号以降に掲載予定）  
(3) 参加費：3,000 円/人（会費には昼食代が含まれます）

## 農地保全研究部会第 33 回研究集会の開催について（第 2 報）

テーマ「東日本大震災に伴う津波被害・対策とその後」

技術者継続教育機構認定プログラム



農地保全研究部会では、第 33 回研究集会および現地研修会を開催します。プログラムや参加申込みについては下記のとおりです。

### 1. 開催日

(1) 研究集会 平成 24 年 11 月 20 日（火）  
(2) 現地研修会 平成 24 年 11 月 21 日（水）

### 2. 場 所

(1) 研究集会 宮城県管工事会館  
〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町 3-5-22  
市営地下鉄 勾当台公園駅県庁側出口 徒歩 5 分，NHK 仙台放送局向かい，宮城県庁・県警庁舎となり  
☎022-262-6701

(2) 現地研修会 宮城県石巻市，亶理町

### 3. プログラム

(1) 研究集会  
9：30～10：00 受付  
10：00～10：10 部会長挨拶 北里大学 長利 洋  
10：10～11：10 講演 1「被災農地等の復旧と今後の農業・農村の復興について」  
宮城大学 加藤 徹  
11：10～12：10 講演 2「津波・高潮により海水や土砂が流入した水田の除塩について」  
農村工学研究所 原口暢朗  
12：10～13：10 昼食（周辺の食堂をご利用ください。）  
13：10～13：50 講演 3「東日本大震災に係る農地の復旧・復興状況」  
宮城県農林水産部農村整備課 技術副参事 猪股直行  
13：50～14：30 講演 4「津波被災農地の塩害対策とがれき対策」 宮城大学 千葉克己  
14：30～15：00 講演 5「河南矢本地域の被災状況と復旧復興について」  
河南矢本地域改良区工務課課長補佐 内海善吉

15：00～15：20 休憩  
15：20～15：50 講演 6「東日本大震災被害状況」  
亶理土地改良区総務課主事 三品裕二  
15：50～16：30 情勢報告「東日本大震災からの農業農村の復旧・復興の状況」  
農林水産省農村振興局防災課 海岸・防災事業調整官 鈴木浩之

16：30～17：10 総合討論  
18：00～20：00 情報交換会

### (2) 現地研修会

8：40～ 8：55 受付（受付場所は JR 仙台駅西口）  
9：00 仙台駅発  
10：10～10：40 東松島市「大曲地区」（河南矢本地域改良区）  
12：10～13：20 亶理 IC 昼食  
14：10～14：40 亶理町荒浜周辺（亶理土地改良区）  
15：20 仙台空港  
16：10 仙台駅 解散  
（なお、講演テーマや現地研修会スケジュールについては一部変更になる可能性があります）

### 4. 参加費および申込み

(1) 参加費 研究集会 3,000 円  
情報交換会 5,000 円  
現地研修会 4,000 円（昼食代 1,000 円含む）  
(2) 申込み・問合せ先  
北里大学獣医学部生物環境科学科 環境計画学研究室 柿野  
〒034-8628 青森県十和田市東二十三番町 35-1  
E-mail：kakino@vmas.kitasato-u.ac.jp  
☎0176-23-4371（代）内線 452 FAX 0176-23-8703  
(3) 申込締切 平成 24 年 9 月 20 日（木）  
(4) 支払い方法 銀行振込  
ゆうちょ銀行 普通 16136331  
農地保全研究部会